



地域子育てネットワークだより

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県県民生活部男女青少年課

E-MAIL : daniioseishounen@pref.hyogo.lg.jp 電話 : (078) 341-7711 (内線 2780)

令和6年6月号



「ひょうご子育て応援の店」

県では、子育て世帯を応援するため、企業や店舗の協賛による料金割引や、子ども連れが利用できる授乳室の設置など、様々なサービスを実施しています。

全国共通マーク入りなので、他府県の協賛店舗でもサービスを受けることができます。

ぜひ会員登録してご利用ください！

パスポートイメージ (スマホ)

★サービス/特典例

- ※ 都道府県・各企業・店舗により異なります。
- ◎ 料金の割引、ポイント加算、景品プレゼント等
- ◎ 協賛店の行事 (子ども向けイベント等) への参加
- ◎ 子ども連れにやさしい設備の利用 (プレイルーム、授乳室、ベビーベッド等)

★登録は下記の QR コードから(登録:無料)



このマークが目印！
ひょうご子育て
応援の店ステッカー



パパの育児ライフ応援します 育児するパパ応援サイト



夫婦が協力して家事や育児を行うことは今や当たり前の時代ですが、**男性の家事・育児時間**は、**まだまだ少ない**のが現状です。県の6歳未満の子どもがいる世帯の夫の家事・育児関連時間は、平成28年が1日あたり85分(社会生活基本調査)。令和3年では94分と微増しましたが、妻の436分と比べると依然として**大きな格差**があります。あなたの家事・育児時間は何分ですか？

このサイトでは、**育休を取得したことがあるパパさんの体験談**のほか、親子向けの講座やイベントに参加されたパパさんの感想などを紹介しています。

先輩パパのメッセージを参考にしてみてください！

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/ikupapaoen/index.html>



SOS キャッチ研修紹介②～中播磨県民センター～

各県民局・県民センターでは、子育て応援ネット活動の支援のためSOSサインのキャッチのポイントや事例等を学習する研修会を開催しています。その中から令和5年10月2日に行われた中播磨県民センターでの研修の一部を紹介します。

『具体的な児童虐待の予防や対応』 認定 NPO 法人 児童虐待防止協会理事長 認定 NPO 法人 子ども相談センターぬっく理事 津崎 哲郎 氏

虐待の背景には「**経済的困窮**」、「**家族の社会的孤立**」、「**親の人格的不安定性**」などがあり、付加要因として**ステップファミリー（中途養育）**などがあります。現在、全結婚の4分の1が再婚であり、その場合、子どもは実親との離別、母子（父子）家庭、再婚による異父（異母）というプロセスを体験します。母子（父子）家庭の場合、子と母親（父親）の関係は密になるため、新たな親が来ると、実親を取られたとの思いが生じライバル関係になります。新たな親には子どもがかわいげがないと映り、しついできていないと感じ、自分が親になったので、しついでを直すという姿勢が強まります。実親は新たな配偶者に気兼ねして子どもを守れなくなります。安心と信頼のない中、問題がエスカレートして、新たな実子ができた後、差別することなどが生じることもあります。

虐待を受けた子どもが保護されてもそれで解決ではありません。**脳にまでダメージ**を受け、回復には虐待を受けた時間と同じぐらいかけて、しっかりと温かく虐待のない施設や里親のもとで養育することが必要です。もう一つ知って欲しいのは内臓機能への影響、**胸腺の萎縮**が起こる事です。胸腺はストレスに反応しやすく、虐待を受けると萎縮し、**免疫機能に影響**を与えます。

虐待された子どもが問題行動をおこすと周囲から叱責を受けたり、疎外される**二次的虐待**を受けることがあります。また、虐待を受けた子が親になり子を虐待する**世代間連鎖**もおこりがちです。

虐待の証拠を残すことは大事で、アザ等を発見したらまず写真撮影（難しい時はスケッチなど）で証拠保全することが基本です。この初期対応について、子どもと日々接触する現場に早急に周知を図ることが虐待予防にとって大事です。

一市民として、虐待懸念のケースへの気づきと通告、そして虐待の背景や支援制度についての学習と理解、子どもにとっての良き理解者であることなどに心がけていただければと思います。



連載

第169回

溶連菌感染症の流行に注意しましょう



県立こども病院名誉院長 中村 肇

ここ数年、新型コロナの流行で、みなさんマスクし、**嚴重な感染対策**をとってきたので、夏になるとこれまで繰り返してきた**感染症の流行がありません**でした。そのため、国民全体の**免疫力がなくなっており、大流行の恐れ**があります。

夏に流行しやすい感染症のひとつである**溶連菌感染症**は、ときに、心臓弁膜に障害などを起こすリウマチ熱や、急性糸球体腎炎につながることもあるので**要注意**です。

はじめの症状は、多くの夏カゼと同様に発熱（38～39℃）と“のど”の痛みです。繰り返しかかることもあり、大人になってもかかります。咳やくしゃみなどによって、近くの人に感染（飛沫感染）し、溶連菌に汚染された食品が原因のこともあります。

夏カゼの多くはウイルス感染症ですが、**溶連菌感染症は細菌感染症**であり、**適切に抗菌薬を服用**すれば、効果があります。小児科医を受診すれば、溶連菌検出用の専用キットがあり、容易に診断できますので、**早めに受診**することです。

